


## 修理報告書

作業日：2011年10月06日～ 2011年12月12日		作業番号：111070	
得意先名： 大阪大学		ロックゲート株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷1-11-12 電話：03-5805-8411 FAX:03-5805-8431	
部課・顧客：基礎工学研究課 物性物理工学領域 山田亮先生			
顧客氏名： Helitran LT-3クライオスタット用 トランスファーライン		作業者名： H.K.  他 名	
住所： (〒560-8531) 大阪府豊中市待兼町1-3 TEL: 052-789-3819 FAX: 052-789-2760 E-mail: wtakeuti@alice.xtal.nagoya-u.ac.jp			
装置名： Helitran LT-3B用 トランスファーライン 機種・S/N： 09-HT261		合計作業時間： 時間	
作業区分： 有償 (理由：修理ご依頼による。)		往復移動時間： 時間	
御依頼作業内容			
<p>① Helitranの冷却温度が高い。 真空リークの可能性あり。</p> <p>② 内部真空リークの場合、米国ARS社工場での修理</p>			
作業内容			
<p>1. 国内でのHe漏洩検査を実施。 内管Heシールドフローラインより真空断熱部へのリークが検出された。</p> <p>2. ユーザーの依頼を受け、米国ARS社工場に修理を依頼。 木箱梱包の上、輸出。</p> <p>3. ARS社工場検査により、トランスファーチューブ内管（シールドフロー管）端部の継手部からのリークが検出された。</p> <p>4. 分解・修理・組立 トランスファーチューブの内部配管（Tip Flow及びShield Flow）全体を新規作成・交換取り付け。 外部真空断熱管内に組込・溶接組立。 完成リークテスト時リークデテクタのバックグラウンド（5x10E-11mbar・1/sec.）で漏洩検出されず。 合格</p> <p>ご使用に際して</p> <p>1) トランスファーチューブは内管が薄肉の微細管の組合せにより構成されており、機械的な衝撃を加えないよう取り扱いにはご注意願います。</p> <p>2) トランスファーチューブの取扱については 別途提出の「Helitran簡易取扱い説明書」を参照下さい。</p>			
使用部品等		作業結果：完了  御確認署名	
P/N	品名		数量